

【様式 02】 高大連携公開講座シラバス

| | |
|----------|-------|
| * 科目 No. | 06206 |
|----------|-------|

| | | | |
|---------------------|---|--------------------|----------|
| 1. 開設大学 | 県立広島大学 生命環境学部 | 開講場所 (キャンパス・施設) | 広島キャンパス |
| 2. 科目名 | CO2 を見える化してみよう | | |
| | 学問分野 | 番号 | 43 名称 環境 |
| 3. 担当教員 | 原田浩幸 環境科学科 教授 小林謙介 環境科学科 准教授 | | |
| 4. 開講期間(曜日) 開講時間 | 平成 27 年 7 月 25 日(土曜日) 9 時 40 分～12 時 30 分 | | |
| 5. 募集定員 | 30 人 | | |
| 6. 科目内容・ 授業計画 | <p>CO2 を起源とする地球温暖化は第 5 次 IPCC により, 原因は人為と認定され, いまや気候変動などによって現在の世代の人類から将来にわたって全人類の脅威になっています。ではこれをどのように影響を最小限に留めるか! を議論するために本講義の前半では温暖化のバックグラウンドを学び, 削減に向けた国際的な取組について解説します。後半では CO2 を可視化して削減のための指標とする方法(ライフサイクルアセスメント)を説明します。</p> <p>1: CO2 起因地球温暖化 環境科学科 原田 地球温暖化のメカニズムを説明し, 第 5 次 IPCC 報告をベースにその将来的な影響を解説します。</p> <p>2: 世界的な取り組み 環境科学科 原田 最初は京都議定書から始まり, 機運が高まりましたが, 京都議定書の期限が切れたことや日本では原子力発電がストップしたことから, 世界も日本も取組をどうするか模索(ポスト京都議定書)がなされているが, なかなか 解答が見つかりません。この現状について解説します。</p> <p>3: CO2 の可視化 環境科学科 小林 ライフサイクルアセスメント(LCA)手法を用いて, CO2 排出量の計算方法を講義します。また計算演習を行って, 自ら計算できるようになることを目指します。さらに, LCA の活用例として, カーボンフットプリント等について説明します。</p> | | |
| 7. 受講料 | 無料 | | |
| 8. 別途負担費用 | (テキスト代・実習料等) なし | | |
| 9. 開講条件※1 あり・ない | <p>① 最少開講人数(6人)定員超過の不許可は選考により決定</p> <p>② 不許可・不開講通知日 6月末</p> | | |
| 10. その他特記事項 | <p>受講者についての制限事項, 事前に予習しておく資料・文献など特記すべきこと</p> <p>本講座は, 広島キャンパスで開催します。</p> | | |
| 11. 開設大学への 交通手段 | <p>http://www.enica.jp/ から開設大学のホームページにジャンプして確認してください。</p> | | |

※1 申込時点で原則, 受講できます。ただし, 開講条件で不許可・不開講があった場合は受講申込者へ通知します。